

2025年度通常総代会報告書



- 第1号議案 2024 年度事業報告書および決算関係書類等承認の件
- 第2号議案 2025 年度事業計画及び予算決定の件
- 第3号議案 役員報酬限度額決定の件
- 第4号議案 議案決議効力発生の件
- 役員選挙

すべての議案が賛成多数で可決されました。
また役員候補者は全員当選となりました。

**引き続き「北大生協再生三か年計画」に沿って
累積赤字の解消をめざします。**

議案の採決結果と出席者数

議案の採決結果

議案の採決結果 出席総代数 189 名（うち実出席数 84 名）

総代選出状況

選挙区	定数	選出数	選出率	本人出席	代理出席	書面出席	出席合計	参加率
学部1年生	194	104	77.3%	55	1	45	101	97.1%
学部上級生		46		14	0	25	39	84.8%
大学院生	30	16	53.3%	10	0	3	13	81.3%
教職員	60	39	65.0%	2	0	24	26	66.7%
生協その他	10	10	100.0%	3	0	7	10	100.0%
	294	215	73.1%	84	1	104	189	87.9%

- 学部1年生の総代選出は今回から1クラス2名を目標に選出し大きく増加しましたが、学部上級生は昨年から減少しました。院生総代は昨年を維持し、全体としては昨年の選出数より少ない選出でした。

選挙区（人）		2025定数	2025選出数	2024	2023	2022	2021	2020	2019
学部生	1年生	194	104	148/150	149/150	52/52	52/52	0/52	52/52
	2年生以上		46			64/98	40/48	60/90	66/90
大学院生		30	16	16/40	26/40	23/40	23/50	37/50	29/50
教職員		60	39	46/60	48/60	48/60	52/60	54/75	54/75
生協職員その他		10	10	9/10	10/10	10/10	5/10	7/7	7/7
合 計		294	215	219/260	233/260	172/260	172/220	158/274	208/274

- 全議案全て賛成多数で可決決定されました。

【議案表決結果】

議 案	保留	反対	賛成
第1号議案 2024年度事業報告書および決算関係書類等承認の件	0	0	188
第2号議案 2025年度事業計画及び予算決定の件	7	1	180
第3号議案 役員報酬限度額決定の件	3	4	181
第4号議案 議案決議効力発生の件	3	1	184

※ 議長は採決者数に加わりません

2025 年度総代会の議事の概要

【2025 年度 通常総代会】

開催日時：2025 年 5 月 22 日（水）18:30～19:56

開催場所：北海道大学 日本製鉄オープンホール

出席総代：内訳：本人出席 84 人・代理人出席 1 人・書面出席 104 人 合計 189 人

出席役員：坂爪浩史 理事長、齋藤真廣 専務理事、金川眞行 常務理事、渡邊稀羅 常務理事
小川美香子 常務理事、櫛井太智 常務理事、石本万象 常務理事、
野呂香綸 常務理事、田代直也 理事、寺垣穂香 理事、松田和歩 理事、
山下匡隆 理事、栗栖櫻蓮 理事、芳賀永 監事会議長、山崎瞳子 監事

議長：山本桃加（学部生総代）

書記：岡田唯花（学部 2 年）、田所和廉（学部 2 年）、田中丈翔（学部 3 年）

議事運営委員：山下匡隆（理事）、寺澤一彦（生協職員）

昨年に引き続き、総代会を対面開催いたしました。会場は工学部日本製鉄オープンホールをお借りして開催いたしました。

学生、院生、教職員をはじめ、オブザーバーも含め多くの実出席で開催することが出来ました。実出席総代 84 名、代理人出席 1 名、書面出席 104 名の他、オブザーバーも 30 名ほど参加いただきました。採決の結果、すべての議案が賛成多数にて決定承認されました。

当日総代から多くの発言もあり、また事前に多くの意見（「意見書」後掲 P5）もいただき、活発な議論が行われた総代会となりました。



【議事について】

【第1号議案 2024年度事業報告および決算関係書類等承認の件】

- 2024年3月から2025年2月までの北大生協の事業と経営結果の妥当性について確認され、2024年度に生じた損失の処理方法についても承認されました。
- 当期末処理損失金1億6,889万円を2025年度に繰り越す事が承認されました。

櫛井太智 常務理事、齋藤真廣 専務理事より2024年度の組合員活動報告及び事業活動報告、決算関係の報告があり、また芳賀永 監事会議長より監査報告があり、過半数の賛成により原案どおり可決承認されました。

（賛成188、保留0、反対0）

【第2号議案 2025年度事業計画及び予算決定の件】

- 2025年度の事業方針とその計画の供給予算、損益計画を決定しました。

櫛井太智 常務理事、齋藤真廣 専務理事より2025年度事業計画及び予算決定の件について提案され、過半数の賛成により原案どおり可決決定しました。（賛成180、保留7、反対1）

【第3号議案 役員報酬限度額決定の件】

- 役員（理事・監事）の役員報酬の限度額を決定し、その運用については理事会・監事会に委ねることが承認されました。

齋藤真廣 専務理事より、役員報酬限度額決定の件について提案され、過半数の賛成により原案どおり可決決定しました。（賛成181、保留3、反対4）

【第4号議案 議案決議効力発生の件】

- 議案の本誌に反しない範囲の字句の修正を理事会に一任することが承認されました。

櫛井太智 常務理事より、議案決議効力発生の件について提案され過半数の賛成により原案どおり可決決定されました。（賛成184、保留3、反対1）

【役員選挙】

理事及び監事全員が本総代会の終了をもって任期満了退任となるため、2025年度役員選挙をおこないました。

役員選挙管理委員会 笠原委員長より、『役員選挙規約に従い公告期間に受付た候補者は理事会推薦のみであり、定数内（理事25名、監事4名）のため、投票は省略し候補者は全員当選とする』旨の説明があり、拍手で確認されました。

【総代のつどい～総代会編～ について】

総代会終了後の20時より、工学部食堂にて総代のつどいを開催しました。「総代のつどい」とは、総代同士や生協職員、総代以外の組合員らを交えた意見交流会のことです。

<総代のつどい～総代会編～ 概要>

今年度は、40名を超える総代及び組合員の方にご参加いただきました。

食堂では、学部1年生（文系）・学部1年生（理系）・学部上級生及び院生という区分を設けて、それぞれのテーブルについてもらいました。各テーブルで、生協学生組織委員会にて用意したトークテーマをもとに、自由な意見交流を楽しんでもらいました。（各トークテーマと交流された意見の一部は下記参照）。お食事として、今後生協食堂にて提供予定の「七大戦フェアメニュー」から一部を、試食会という形で提供しました。また、意見交流をできるテーブルの他、学生委員会が発行する機関誌『Letter』を配布するブース、ベジチェック®を用意して学生委員会の共済活動を体験できるブース、組合員の声カードの閲覧や記入体験ができるブースも用意しました。

本つどいでは、総代をはじめとする組合員の皆さんの現状についての声や、生協に関する意見等をたくさんいただきました。こうした現状や意見をもとに、理事・組織委員会・生協職員らによって、今後のよりよい生協運営に活かしてまいります。



<交流会でのトークテーマと寄せられた声（一部抜粋）>

【総代関連】



○総代になった理由

・クラスに二人いてそんなに負担もないため、やってよかった。／北生（『北大生の生活』）で見てなりたいと思っていた。／なるメリットの方が大きいと思った。／生協の活気に惹かれて続けた。／周りで誰もやらないからやろうかなと思った。／なかなか決まらなくてなった。

○総代会に参加した感想

・話がしっかり通っていた。ちゃんと動いていいなと思った。／議論が白熱しててびっくりした。／質問に対してははっきりとした返答が行われていないと感じた。／収入を増やすことには限界があると思う。支出を減らす必要があると思う。

【大学生活】

○北大生活について

- ・とにかく自由だと感じる。授業も楽しい。／授業関係で友達を作った。／意外と忙しい。

○大学生活で困っていること

- ・北海道寒い。／自炊が難しい。／TOEFL が怖い。／時間割を作ることにかなり苦労した。

【生活習慣について】



○健康についての意識

- ・夜遅くまで外を出歩いちゃうから（健康が）崩れがちになる。／朝ごはん抜きがちになってる。／一人暮らしを始めてから逆に QOL が上がり、野菜とかもたくさん食べるようになっている。／学生会館に住んでいるだからごはんはちゃんと食べてる。

【生協店舗について】

○食堂や購買を利用しての感想

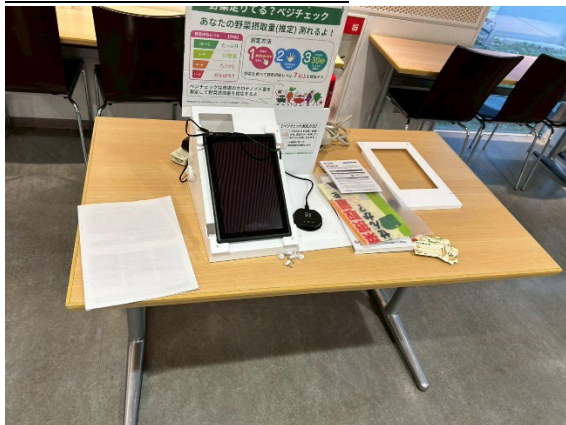
- ・食堂の料理で、栄養についてもっと細かく分かりやすく書いてほしい。／果物を置いてほしい。／文房具が意外と少ない。／ミールプランが対象のものは一括で置いてほしい。

<ブースの概要>

○組合員の声ブース

生協の各店舗に設置されていて、生協に対して意見を伝えられる「組合員の声」をブースとして設置しました。設置の理由は、参加者の方に、組合員の声というサービスについて認知してほしかったためです。

○ベジチェック®ブース



株式会社カゴメによる、簡単に推定野菜摂取量を測定できる機器「ベジチェック®」を設置しました。参加者の方に、普段の野菜摂取量の目安を知ってもらいたいというのが設置理由です。また、学生委員会の共済活動ではこのベジチェック®を用いた企画を行っていることもあり、ベジチェック®について知ってもらうことも設置理由の一つです。

今回のつどいでは、システム障害によりベジチェックを体験していただくことは叶いませんでした。ですが、今後も学生委員会では北部ウコトイセ店等にてベジチェックを用いた企画を実施予定ですので、企画の際はぜひご参

加いただきたいと思います。

○『Letter』ブース



学生委員会の機関紙『Letter』を、参加者の方に自由にお持ち帰りいただける形で設置しました。設置したのは最新号と、過去2号分のものについても設置しました。

2025 年度 役員一覧

2025 年度の理事・監事は通常総代会において決定就任し、その後の第一回理事会及び第一回監事会において、役職が互選され決定しました。

理事会			
	役職	氏名	所属
代表理事	理事長	坂爪 浩史	農学研究院 教員
代表理事	専務理事	齋藤 真廣	生協職員
	常務理事	金川 眞行	総務企画部総務課 職員
	常務理事	小川 美香子	薬学研究院 教員
	理事	林 忠一	北方生物圏フィールド科学センター 職員
	理事	今村 央	水産科学研究院 教員
	理事	渡部 典大	工学研究院 教員
	常務理事	石本 万象	文学院 修士 2 年
	理事	野呂 香綸	総合化学院 修士 2 年
	常務理事	田代 直也	工学院 修士 1 年
	常務理事	渡邊 稀羅	農学部 学生 4 年
	理事	寺垣 穂香	文学部 学生 4 年
	常務理事	櫛井 太智	法学部 学生 3 年
	理事	松田 和歩	農学部 学生 3 年
	理事	山下 匡隆	法学部 学生 3 年
	理事	栗栖 櫻蓮	工学部 学生 3 年
新任	理事	川上 あき	高等教育推進機構 教員
新任	理事	佐藤 哲生	工学系事務部 職員
新任	理事	里 眞理子	北キャンパス合同事務部 職員
新任	理事	中野 翔太郎	法科大学院 修士 1 年
新任	常務理事	田所 和廉	理学部 2 年
新任	理事	岡田 唯花	医学部保健学科 2 年
新任	理事	福嶋 柳之丞	教育学部 2 年
新任	理事	福田 梨瑛	教育学部 2 年
新任	理事	塩野谷咲希	法学部 3 年
監事会			
	役職	氏名	所属
大学推薦	監事	芳賀 永	先端生命科学研究院 教授
	監事	岡野 泰樹	経済学研究院 准教授
	監事	山崎 瞳子	生命科学院 修士 2 年
新任	監事	戸松 陸	文学部 4 年

順不同

当日の発言と回答

下記の通り当日発言通告がありました。

《通告項目について》

総代会当日に出された質問や意見に対し、当日会場での齋藤専務からの回答をもとに加筆修正しています。

＜発言内容＞ 質問「ミールプランシェア率について、セルフレジ導入について 学部生総代より

ミールプランシェア率は目標 40%に対し、33%であるとあったが、恐らくは全学生でみたものでなく新入生のみのものであるようにみた、住み替えを行う二年生以降では、より自炊が必要になるはずである。栄養の補助のために、ミールプランを行っているが、より必要となる二年生以降のシェアは低下している。ミールプランの継続率について生協ではどのように考えているのか。

セルフレジを導入し、無人店舗化したが、在庫の数量の減少と、売り上げのズレはどの程度生じたか。不正な会計が行われていたり、何か損失は生じたりしていないか。

- A. 2年生以上の継続率はおおよそ 40%程度で推移しており、2025 年度はやや減少傾向にあります。食事付き学生会館から退去される方も多く、自炊が必要となる学生が増加しています。ご指摘の通り、上級生の方がミールプランをご活用いただける可能性は高く、今後はこの層へのアプローチを強化すべきと考えております。一方で、1 年生とは異なり、上級生の授業教室と食堂が必ずしも近接しているわけではないため、特に冬場は食堂の利用が難しい学部・学科もございます。このように、利用の有無が確定しづらい点が継続率の数値に表れていると考えられます。今後、上級生向けには利用期間を区切るなど、ミールプラン制度の見直しを検討してまいります。
- また、セルフレジ導入後の棚在庫につきましては、導入前と大きく変わらず安定して推移しております。節度あるご利用に、改めて感謝申し上げます。

＜発言内容＞ 質問 「赤字からの脱却プランについて考えについて」 院生総代より

理事の皆様にあつては、日頃より学園の福利厚生施設の改善、組合員の文化的・経済的生活の向上に努めて頂き厚くお礼を申し上げます。今回は 2 号議案について、赤字からの脱却プランの戦略構想に少し改善の余地があるのではないかとこの事で 6 点お伺い致します。

1. 損失金の増加(つまり赤字)は改善が必要であるという認識で合っているか。

事業を営むにあたり、例えば大学公費や教科書利用の大幅減少など、経営環境が悪化しており、赤字が出る事は誰の責任でもなく、仕方のない事です。しかしながら、赤字の意味するところは、頑張っても報われず、事業として持続可能性が無いという事です。強い言い方をすれば今の生協はやってもやらなくてもいい慈善事業を営んでいるという事になってしまいます。この状態では誰も報われませんので、早急に財務状況の改善が必要であるという事で理事の皆様と私共のご認識は一致しておりますでしょうか。

2. 「安く多く」は現在の経営戦略として妥当でない事は理解しているか。

学内の市場環境は大きく変化しつつあります。物販に限って申し上げれば、北海道 1 位のセイコーマートに加え、全国 1 位のセブンイレブンが進出してきております。大学生協は少なくとも学内の物販の市場において 1 位の資本力を持った存在ではなく、2 番手以下であります。値段とコストダウンではセブンイレブンには勝てません。何も学生に不当に高く売り付けろとは言っているわけではありませんが、コストダウンよりも、いまの 2 倍の値段でも喜んで買ってもらえるような素晴らしいサービスを創るにするにはどうすべきかに対して知恵を絞る局面であるという分析に対してはお考えが一致しておりますでしょうか。

3. 経営環境の変化を正しく理解しているか。

これまで北大付近にコンビニの様な競合大手はありませんでした。しかし、ネット通販の台頭に伴って、今や Amazon やブックオフなどの通販大手も物販や書籍販売での競合となってきました。これまでの北大生協は自動車業界の「トヨタ」だったのですが、いつの間にか「スバル」や「マツダ」の様な位置になってしまっています。しかし今回の議案や実際の経営方法を見ると、あたかもエンジンにこだわる「マツダ」が、「トヨタ」の様に総合的なビジネスに手をだし、なるべく安く多く売る方向で頑張り、採算度外視で戦う様にビントボケした経営の様な気が致します。こうした経営環境の変化への適応についてはどのようにお考えでしょうか。

- A. 財務状況の早急な改善が必要であるという認識については、一致しております。学生の生活や研究活動を支えることが、北大生協の根本的な使命である以上、総合的なサービスの継続は不可欠であると考えております。ただし、そのサービスの「濃淡」については、現状に応じて柔軟に見直していくことが重要と考えます。今後の北大生協に求められるのは、組合員、特に北大生の生活に密接に関わる分野において、どのように価値を提供し、強化していけるかという点に尽きると考えます。具体的には、「食べる」「住む」「学ぶ」という3つの側面から、「食事業」「住事業」「学び事業」を今後の柱として位置づけ、重点的に取り組んでまいります。

価格のお話がありましたので、生活に一番身近な「食事業」についてご報告いたします。

大学生協の食堂に関する話題には、常に価格の問題が付きまといます。ご指摘にもありました通り、牛丼やラーメン、ハンバーガーなどと昔から比較され続けてました。

牛丼は2000年代前半に280円まで価格を下げた後、一時は300円台後半となりましたが、2013年頃から再び280円前後に戻り、現在は500円前後となっています。マクドナルドのハンバーガーも、20年前は100円以下（平日では65円）でしたが、現在は200円近くまで上昇しており、およそ2倍となっています。北大生協においてもこの間、段階的な値上げを行っており、学生組合員の皆さまにはご負担をおかけしていることを、私たちも重く受け止めております。このように、大学生協の食堂は、個々のメニューで見ると「高い」と言われることが少なくありません。しかしながら、実際の平均食単価は580～650円程度であり、他業態と比較しても、価格設定が特段高いとは考えておりません。

ここで重要な課題となるのは、学生の仕送り額がこの10年近く、ほとんど変わっていないという現実です。アルバイト収入の増加により、学生全体の収入はこの10年で約10%増加していますが、物価上昇のスピードには追いついておらず、実質的な可処分所得は減少傾向にあります。加えて、学生が食費に充てる金額は10年前と同程度、あるいはやや減少しており、その結果として、食堂の価格ですら「高く感じる」学生が増えているのが現状です。

食堂運営の視点から見れば、原材料費や人件費の高騰により、メニュー価格の見直しは避けられない課題です。一方で、学生にとって食費の捻出が困難であることも、真摯に受け止める必要があります。

このような状況を受けて、昨年度からは校友会エルム様や企業との連携により、「100円朝食」や「100円夕食」の取り組みを積極的に展開しております。今後もこのような支援の機会を拡大し、より多くの学生の食生活を支えていきたいと考えております。

経営上、価格改定は不可避な要素ではありますが、それにとどまらず、この機会を「学生生活支援を強化するチャンス」と捉え、より実効性のある取り組みを進めてまいります。

<発言内容> 質問 「学部生に学生生協を利用してもらう工夫について」 院生総代より

第1号議案、第2号議案P17の参考資料によると、店舗別収益では学部ごとに弱いように見えます。この原因についてはP15でコンビニ店の影響および長期休暇での客数減少となっているのですが、どのような工夫をすることでP62のように予算では黒字転換や修●を計る予定ですか。また、予算では人件費が増えたりする場合もあるようですが、これも計画の内の1つでしょうか。

- A. 小規模な学部店の多くは赤字経営が続いており、その損益改善策として現在、無人営業化の取り組みを進めております。

具体的には、昼のピーク時はこれまで通り有人での営業を継続し、これまで閉店していた時間帯につ

いては、無人での営業を実施する方針です。これにより、サービス提供時間の拡大と運営効率の両立を図ってまいります。

無人営業の実施にあたっては、セルフレジによる決済が前提となるため、組合員の皆さまにもいくつかのご協力をお願いすることとなります。無人営業という性質上、いたずらや不正行為のない、節度あるご利用をお願いしたい点。そして、セルフレジでのスムーズな決済のために、生協電子マネー（IC組合員証等）による決済環境のご準備をお願いする点です。すでにいくつかの学部においては、事務長・学部長との面談を実施し、無人営業の導入にあたり、上記の制約事項についてご理解をいただいております。

また、人件費については、昨今の最低賃金の上昇や物価高騰の影響を受け、今後も一定の増加が見込まれています。そのため、必要な人員確保の観点から、あらかじめ増加を見込んだ形で予算に計上しております。

<発言内容> 質問 「赤字からの脱却プランについて考えについて」 ② 院生総代より

4. 各事業における競合他社をどのように分析しているか。

北大生協においては「供給および利用」の2事業、「その他」の1事業を抱えているものと承知しております。これらの事業における競合について、ネット通販や大学外の近隣店舗も含め、例えばどの会社・店舗を具体的に想定して経営されておりますでしょうか。また、それは本当に北大生協の実際の在り方を捉えた分析なのでしょうか。

5. 北大生協は競合他社に対してどのような強みを持っていると認識しているか。

北大生協のサービスで使っていて良かったのは、学生総合共済とルームガイド、それから構内入構証の発行であります。これらのサービスには非常にお世話になっており、大変感謝しております。しかしながら、ここまで再三申し上げています通り、北大生協は最早、北大周辺市場における「トヨタ」ではありません。私個人も書籍を買うならAmazon、ごはんを食べるなら、自炊か、すき家かクラーク亭、あるいは13条の又造などで食べるわけでありまして。パソコンはネットで買いますし、急ぎで必要なものはコンビニで買います。自転車ならば13条門の前の川口自転車商会やDCMで買って直すわけでありまして。正直なところ食堂などはココ壺やすき家などの方が安くてレベルも非常に高く、こうした店に場所を譲った方が良いんじゃないかと個人的には思っておりますが…大学生協は価格・品質共に競合他社に劣っておりまして、強い言い方をすれば大学と癒着（あるいは癒合）して生き残っていると言われても仕方のない状況であります。ぬるま湯に浸かり切った生物は得てして強力な外敵が攻め込んでくると直ちに絶滅するわけですが、国立大学に守られ、競争の無い環境に慣れ切った北大生協は果たしてそういう状況にはなっていないとは言いきれませんでしょうか。上記踏まえ、北大生協の本当の強みとは何なののでしょうか。私は大学に密着しているからこそ出来るスピード感、柔軟さ、きめ細かい対応こそが強みであると分析しています。であるならば、本当はこれらの強みを更に伸ばし、中心にして事業を組立て直すべきなのではないのでしょうか。

- A. 続けてのご質問ありがとうございます。先ほど回答した食事業について価格以外の価値のお話をすると、北大生協続けてのご質問ありがとうございます。先ほど回答した食事業について、価格面だけでなく、提供している「価値」についてもお話させていただきます。北大生協の食堂は「第二の食卓」を目指して運営しています。皆さまは「食卓」と聞いて、どのようなイメージを持たれるでしょうか。例えば外食と比べて、栄養バランスが良く、毎日食べても飽きがこないけれど、特別好物ばかりが出てくるわけではない…そんな、ご家庭のような存在ではないでしょうか。たとえば「実家のカレーが一番おいしい」といった感覚もその一例かと思えます。私たちは、毎日無理なく食べ続けられるメニューを提供することこそ、大学生協食堂の使命であると考えています。毎日牛丼やハンバーガーばかりの生活ではなく、栄養バランスに配慮しながら、日々の食事として安心して選んでもらえるようなメニューを提供し続けたいと考えています。

実際、一部のメニューについては非常に好評をいただいております。今週提供した「まぜそば」には、出食前から行列ができるほどの反響がありました。また「牛トロ丼」なども根強い人気があり、他店にも劣らない魅力的な商品をこれからもご提供できると自負しています。ただし、こうした人気商品に限っては、栄養バランスの観点から課題が残る点もあり、今後の検討課題としています。

また、一部学部店では人手不足により出食スピードに課題を抱えているケースもございますが、北部食堂では昼休み時間内に 1,000 食以上を提供し、授業に遅れないよう食事を終えられる体制を整えているのは大学生協ならではの強みです。このように、大量調理を行いながらも、毎日でも食べられるメニューを提供し続けるというのは、北大生協の食堂が持つ大きな価値であり、学生の学内生活を根底から支えていると考えています。他企業の外食業態では一時的な満足は提供できても、年間を通して継続的に利用できる「日常の食堂」としての機能は果たせないのではないのでしょうか。北大生協はこれから「第二の食卓」として、学生の毎日の健康と生活を支え続けてまいります。

<発言内容> 質問 「赤字からの脱却プランについて考えについて」 ③ 院生総代より

6. 大学生協は北大生のニーズや外部環境の変化に適応できておらず、経営戦略や再生3ヵ年計画が口だけの戦略となり、実際の業績改善にはつながっていないのではないかと。

前述の通り、書籍・飲食・物販・情報通信などの事業にあっては競合他社に対して大きく劣る事業を展開している可能性があります。現にこれらの事業の客数・売上・利益は毎年低下している事がその証拠ですし、私の周りでも教科書を北大生協で買う人はいません。再生3ヵ年計画の基本方針1には「北大生協と組合員とのつながりを大切に」とあります。私を含めた組合員は北大生協との間に絆を感じていますが、北大生協は本当の意味で組合員の生活など大事だとは思っていないのではないのでしょうか。組合員が北大生協で買いたくても、北大生協の品質がそれに見合っていないのでは買えません。再生3ヵ年計画の基本方針2には「北大の発展と魅力ある大学作りに貢献し、大学に広く深く根付いた存在になることを目指します。」とありますが、実はただ単に大学に長く居座っている存在であるがゆえに既得権が特権化し、サービス品質向上の努力を怠っていないのでしょうか。この資料には載っていませんが、大学に広く深く根付いているならば利益を稼いでいるはずの外商部門はどれくらいの損益を出しているのでしょうか。

再生3ヵ年計画の基本方針3には「事業構造の抜本的な見直し」とありますが、実は全く見直すつもりなどないのではないのでしょうか。北大生協はAmazonと比べて我々にどんな価値を提供してくれるのでしょうか。すき家や大戸屋と比べて価格以外では何が強いのでしょうか。合理的な答えが出ないならばその事業からは撤退すべきです。時間が限られておりますので細かいご提案は出来ず、また先輩方へ生意気にもご意見申し上げて非常に恐れ多い次第ですが、ここまで申し上げた事を踏まえ、真の意味で正しい戦略を立案し、正しい姿勢で経営し、抜本的な見直しをして頂くようお願い申し上げます。

A. 引き続きのご質問、誠にありがとうございます。今回は、食事業以外において北大生協が組合員の皆さまに提供できる価値について、「住事業」と「学び事業」を中心にご説明いたします。

「住事業」については、現在行っている物件紹介・斡旋に加えて、今後は物件の管理業務を強化していく方針です。管理を行うことで、北大生が生活の中で困った際に、24時間いつでも相談できる「頼れる存在」としての役割を果たしていきたいと考えております。まずは管理物件数の大幅な拡大から取り組みを始め、住環境における安心と安全を支える体制を構築してまいります。

次に「学び事業」についてですが、これは単に教科書や教材の提供にとどまらず、大学内外の幅広い学びの支援を目的としています。たとえば、パソコンの提案では、この春、過去最多となる台数を新入生にご提供することができました。北大生協のパソコン提案は、製品そのものの提供だけでなく、北大生に必要なPCスキルの習得、北大での学びに即した使用環境、4年間の長期保証、代替機の貸出、そして対面サポートといった包括的な支援を含む提案となっています。ネット上では毎年「生協パソコンは高い」との声が見られますが、近年では、生協職員が介入しなくとも、「保証やサポートを考えればむしろ安い」「卒論直前に壊れても代替機に助けられた」といった実体験に基づく声が自然と広がり、評判が好転しています。このように、価格だけでは測れない価値を提供することで、「高くはない」とご理解いただけるようになってきていると感じています。

また、学びの支援としては、公務員講座も重要な柱となっており、北大の公務員最終合格者のうち約2.5人に1人が北大生協の講座受講生という実績があります。現在は新入生向けのサービスが中心ではありますが、今後は他地域の大学生協との情報共有や職員研修を通じて、北大生の学びにさらに寄り添

った事業展開を図っていきたいと考えています。

このように、北大生の生活実態に即した「食べる」「住む」「学ぶ」という三本柱の事業を強化しながら、組合員の皆さまにとってより価値のある生協を目指してまいります。一方で、書籍や文具など一部の分野においては、価格や品揃えの面で大手通販サイトに対抗が難しい現実もございますが、セルフレジの導入や無人営業の拡大などによる業務の効率化を徹底し、持続可能な事業運営を進めてまいります。

なお、今回の総代会に続き、7月にも「総代のつどい」を予定しております。今後も年間を通じて意見交換の場を設け、組合員の皆さまと共に北大生協をより良いものにしていきたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

＜発言内容＞ 質問 「学生相談室への定期相談について」	学部生総代より
学生相談室への定期相談は誰がどのような内容を報告しているのか教えてください。	

- A. 現在、共済センターの店長が定期的に訪問しています。学生相談室は、学生が悩みや不安を抱えたときに誰でも利用できる相談窓口であり、北大生協としても重要な連携先のひとつです。

COOP 学生総合共済の給付事例を報告することで、北大生の現状や課題について意見交換を行っており、より良いサポート体制の構築に努めています。給付事例の共有は、大学側にとっても学生の実情を把握する上で有用であると考え、結果として、北大生協がどのような形で支援できるかを共に考える契機となっています。

また、学生相談室に訪れる学生に対して COOP 学生総合共済の制度をご案内いただくことで、給付漏れを防ぐ取り組みも行っています。

COOP 学生総合共済の目的は、学生が経済的・精神的困難に直面した際にも「学業を断念しない」ことを第一に掲げています。たとえば「こころの早期対応保障」では、気軽に医療機関を受診できるようにすることで、重症化を防ぎ、予防的な対応を促す支援を行っています。

今後も、大学と共に学生に自信を持っておすすめできる制度として、COOP 学生総合共済の周知と活用をさらに進めてまいります。

討論まとめ（理事長 坂爪浩史）

4 人の総代の方々、愛のあるコメントに感謝します。

私自身、「厳しいコメントは、むしろ愛がなければ出てこない」と常々感じております。今回も、愛あるご指摘としてありがたく受け止めております。

「トヨタじゃない」というご発言もありましたが、北大生協は元々からトヨタではありません。トヨタと違うのは、様々な事業を営む総合的な事業体であるという点です。こうした総合事業体の経営は、規制緩和によって競争が激しくなる中、非常に難しくなっています。儲かる分野には他社が次々と参入し、利益を得ることが難しくなっているからです。

同様の総合事業体としては、郵便局や総合農協があります。郵便局は郵便事業が大きな赤字を抱えています。だからといって郵便事業をやめていいのかと言えば、そうではないと思います。総合農協も、農業関連の事業は赤字でありながら、JA バンクや JA 共済によって全体としての経営が成り立っています。だからといって農業関連の事業を止めるわけにはいかない。

大学生協もまた、学内コンビニ、近隣の書店、食堂などとの競合にさらされ、厳しい状況にあります。加えて、大学という環境には長期休暇による繁閑の差があり、経営上の難しさも抱えています。学外の企業であれば、仮に北大内の店舗が赤字でも、他での利益で補填することが可能です。しかし、大学生協はそうじゃない。

大学との関係も、より密接な連携が図れれば理想的ですが、現実にはまだまだ課題を感じる場面もあります。よりよい関係構築に向けて努力しているところです。

私の理想は、「儲かることだけを行う大学生協」ではなく、可能な限りきめ細やかに、学生・教職員の皆様の生活を支え続ける組織であることです。

今回ご発言くださった 4 名の総代の皆様には、ぜひ総代会後の「総代のつどい」でゆっくりお話できればと思っております。

事前にいただいたご意見に答えて

Q1.

いつもお世話になっております。今年度入学をし、お陰様で快適な学校生活を送らせていただいております。大学構内の分別ゴミ箱について意見です。構内には“燃料化ゴミ”と“資源化ゴミ”、“ペットボトル類”といった形で分別が指示されていますが、“資源化ゴミ”として木材である割りばしとプラスチックゴミを同一のゴミ箱に入れることに違和感を覚えています。生協の担当ではない可能性もごさいますが、大学で生活していて特に気になった点でしたので、なぜそのような分別方法となっているのかお答えいただけると幸いです。(学部生総代より)

A 1. (北海道大学施設部環境マネジメント担当様からご回答を頂きました。)

大学で発生するごみは「事業ごみ(事業系一般廃棄物・産業廃棄物)」となり、「家庭ごみ」と異なる収集運搬および処分を行っています¹。

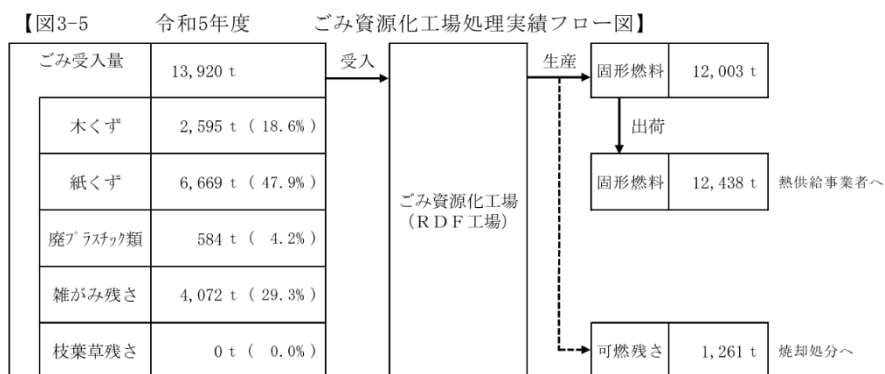
札幌市では、事業系一般廃棄物の木くず・紙くず・廃プラスチックをゴミ資源化工場にて RDF (固形燃料) にリサイクルしており、このリサイクル可能なものを北大では「燃料化ごみ」として分別しています²。プラスチックを RDF に混合することは、燃料の形状を保ちやすくする役割があり、また発熱量増加のメリットもあります³。リサイクルした RDF は熱供給事業者などに供給されています⁴。

一方、家庭ごみの容器包装プラスチックは別の施設で圧縮梱包等を行いリサイクル業者へ引き渡されます²。

北大ではごみ分別推進のためポスター等で案内を行っていますが、今後は Unire 等を活用し、ごみ分別についてより一層周知してまいります⁵。

なお、「資源化ごみ」については、現在の北大分別ルールが制定される前の古い名称であり、「燃料化ごみ」と同じ分別のものです。順次更新いたします。

(参考) 図 令和 5 年度ごみ資源化工場処理実績フロー図⁴



¹ 札幌市環境局(令和7年3月発行)。「『事業ごみ』と『家庭ごみ』の違い」『オフィス・店舗向け 事業ごみ分別・処理ガイドブック 第6版』, p.1-2.
https://www.city.sapporo.jp/seiso/jigyousyo/guidebook/office_guidebook.html

² (一財)札幌市環境事業公社。「施設管理受託業務」札幌市環境事業公社ウェブサイト。最終閲覧日 2025 年 6 月 4 日,
<https://www.kankyou-sapporo.jp/project/project03/facilities>

³ 三浦 広仁(1996)。「札幌市における固形燃料化事業について」『廃棄物学会誌』Vol.7, No.4, pp.316-325.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/wmr1990/7/4/7_4_316/_pdf

⁴ (一財)札幌市環境事業公社(2024)。「3-3 施設管理受託業務」『令和5年度 事業報告書』, p.7-12.
https://www.kankyou-sapporo.jp/plan_report

⁵ 北海道大学。「学内ごみ分別ルール」北海道大学ウェブサイト。最終閲覧日 2025 年 6 月 4 日,
<https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/campus-life/rules/trash.html>

Q2.

丼物のメニューでハーフサイズを選べるようにしてほしい（米の量）

（学部生総代より）

A 2.

サイズの種類を増やすことで盛付分量の種類が増える＝配膳でのオペレーション増と管理する食器の種類増となり、配膳での混雑や新たな費用発生などの理由から、ハーフサイズの提供は難しいです。

現状丼カレーメニューのお米の量は大サイズ 320 g、中サイズ 250 g、小サイズ 180 g となります。

一部中サイズのみの提供のメニューもございますが、ピーク帯以外でしたら「ご飯少なめ」と配膳にお申し付けいただけましたら、少な目での盛付も可能です。料金は変更されませんので、ご理解ください。

Q3.

以前指摘した通り、第1号議案2-4 1) および第2号議案【3】の表の金額について、行っている計算、用いられている数値が不明瞭であるほか、表中のどの数字を用いても計算が合わない（もしくはそのように見受けられる）部分がある。議案の中心になる資料であり、収入の部と支出の部の表を分ける、科目名の字下げ等を用いてどの科目がどの科目に属しているか明確にする、表内の数字だけを用いて計算が完結するようにするなど適切な修正をして欲しい。

また、軽微な不備として、以下のものを見つけたため報告する。

- ・ 第一号議案2-3 1) 1. 組合員の現状に寄り添った活動において「#3目から防災」の「#(ハッシュ)を「#(シャープ)」として記載されているが、これは誤記と思われる。
- ・ 第一号議案Ⅲ(原文は□囲み)Ⅲくり④その他の固定資産において、耐用年数が不記載になっており、これは資料の不備と思われる。

（学部生総代より）

A 3.

この度は資料の不備があり申し訳ございません。総代会当日にも誤表記の修正箇所についてご案内させていただきました。また、分かりやすい資料作りを進めます。

Q 4.

食堂にケチャップを置いてほしい。

（学部生総代より）

北部食堂にケチャップを置いてほしい。ポテトフライや朝の目玉焼きにつけたい。

（学部生総代より）

A 4.

現在ご提供している調味料はドレッシング、醤油、ソース、コショウ、一味としています。費用の関係でこれ以上の種類を増やすことが出来ません。また、賞味期限の管理が難しいこともあり、設置する調味料は限定しております。

なお、個包装のケチャップを販売した場合はご利用いただけそうでしょうか？食堂の組合員の声カードにご返答お願いします。

Q 5.

購買に消しゴムの ARCH を置いてほしい

(学部生総代より)

A 5.

ご要望の商品については「アーチ消しゴム S」が取り扱い可能な商品でした。購買全店での取り扱いは厳しいかもしれませんが、現在取り扱っている商品の利用状況も確認し、商品の入れ替えを含めて検討いたします。

なお、アーチシリーズは M サイズもあるようですが、M サイズ・S サイズともに 1 つから店頭でご注文いただくことも可能です。そのほかの店頭に並んでいない文具も、最短で翌営業日にご用意することが可能ですので、店頭でのご注文もぜひご利用ください（在庫状況次第で前後する恐れがあります）。

Q6.

生協の食堂の水を汲むコップが使いにくい。具体的にはこぼしやすく、少量の水しか入りません。お椀型からグラス型にしてほしいです。

→(学部生総代より)

A 6.

ご意見を頂いたコップについて、グラス型への変更は検討をしております。費用の面で全店一斉に変更するのは難しいため、優先順位をつけて入替を行っていく予定です。ご不便をおかけして申し訳ございませんが、ご理解いただけますと幸いです。

Q 7.

紙パックでよいので、オレンジジュースや牛乳などの飲み物を生協の食堂で販売してほしい。

(学部生総代より)

A 7.

食堂二重価格（非組合員割増）の関係で、ドリンク類を販売するとレジスピードが極端に遅くなるためドリンク類の販売を中止いたしました。ドリンク類についてはお近くの購買店でご購入いただけますと幸いです。

Q 8.

ハラルフード、アイヌ文化推進などのマイノリティの生活をより良くする取り組みは是非今後も積極的に行ってほしい。ベジタリアン対応メニュー→ヴィーガン対応など、できれば厳密にはありがたい。

一方、こうしたマイノリティ向けの取り組みが大きく売り上げには反映されない点、もどかしさをわたし自身覚える。今後も共に考えたい。また、性質上、文化面へのコミットが大半となる点ももう少し色々なアプローチができないか気になる。

(学部生総代より)

A 8.

ハラルメニューが提供できるようになった背景には、昨年店舗ミーティングにおいて北大イスラームック文化クラブにご協力いただき、ハラルメニュー基準を作成できたためです。組合員のご協力により、実現することが出来ました。取り扱える食材に限りがある中ですが、今後も提供していきたいと思っております。一方で定番のメニューと別の食材を一部使用しているのも事実です。定番

メニューよりも食材が高価であることが多かったり、特にベジタリアンメニューだと取り扱いが少なかったりするため、実現までに時間を要することもご理解いただけますと幸いです。

Q 9.

食堂の利用を増やすことも大事だが、12:00~13:00 は飽和して、既に利用者が溢れているのも事実。また、お昼時は混雑しているのでコンビニで済ませようという人も多い。その分が本来利益につながるはずの層から流れ出ている（購買は購買で遠い。）

そこで、「購買の出張販売」を提案したいと思う。

<目的>①食堂の混雑を嫌ってコンビニに流れる層をキャッチ

②食堂の混雑自体の緩和

③また、賞味期限の近い商品をお昼ご飯の時間に売ればフードロスの削減も期待できる。

そもそも夏場は天気も良く暖かい日が増えるので無理に狭い食堂で急いで食べてもらわなくても、お弁当やパンを買って中央ローンやベンチなどでピクニック気分で食べるようにむしろ推奨したら学生のメンタルヘルス的にも効果があるのではないかと思う。基本方針1にある「組合員同士のつながり」も、食堂で席バラバラになって食べるより狙えるかもしれない。ご検討よろしくをお願いします。

(学部生総代より)

A 9.

ご意見ありがとうございます。購買は現在、札幌キャンパスの9つの学部・研究棟内にございますが、立地に不便を感じているということ、また外部への利用流出対策としての出張販売のご提案は大変興味深く拝読させていただきました。購買の出張販売を行うためには人員の確保や商品の衛生管理、効果的な販売場所の検討等の課題もあるため、慎重に検討させていただきたいと思えます。

なお、組合員の利便性向上の観点では、一部店舗で無人営業を開始いたします。状況を見ながら実施店舗・実施時間帯の拡大や従業員体制の変更を行い、サービスの向上（既存サービスの向上だけではなく、ご意見にある新規事業など）につなげて参りたいと思っておりますので、こちらもぜひご意見いただければ幸いです。

Q 10.

大学生協の食堂の食事に含まれる塩分量を減らすことについて、取り組みは行われているのか、今後行う予定はあるのか(なければ行ってほしい)と思います。

(学部生総代より)

A 10.

現在、塩分量を減らす取り組みは行ってはおりません。食堂のメニューカードに表示しているのは食塩相当量となります。食塩だけでなく、ナトリウムを食塩に換算した量も含まれております。今後提供するメニュー（主に独自メニュー）については、塩分含め健康的に食事を摂っていただけるよう努力していきます。

Q 11.

ミールドリンクの再開をお願いしたい。

ミールプランの上限額が上がったため、ミールドリンクの購入も容易になったように思う。また、生協電子マネーの導入も進み、一日に1本までのみ購入できるという制限も守りやすくなったはずである。価格については、以前のものよりも値上げをする必要がある。

- ・ secoma 緑茶 600ml (セイコーマート) 税込 105 円
- ・ 7P—緑茶静岡茶入り 600ml (セブンイレブン) 税込 108 円

相場としては上記の通りであり、CO-OP 緑茶 525ml は 91 円程度で売ることができるはずである。利益率の悪さから、一度ミールドリンクは廃止されたが、価格転嫁によりコスト上昇分を解消できるのではないか。通常販売する飲料と異なり、食堂でのミールドリンクはミールプランの利用を考慮したものである。値上げを行い上限額を越えるようにすれば、食堂の収益も上がるように考える。

(学部生総代より)

A 1 1.

今回ミールプランの上限額を上げた理由としては、食堂メニュー価格の改定があり、健康的に組み合わせ利用をした際に、前年の 600 円だと組み合わせ利用ができないと言う点が大きな理由です。ミールプランは健康的な食習慣を身に付けていただきたい、という想いで提案させていただいておりますので、ミールドリンクの再開は検討しておりません。ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

Q 1 2.

牛トロ井を恒常メニューとしてほしいです。生協の運営状況と牛トロ井はあまり利益率が良くないことなどからも厳しいと思います。いきなりの恒常メニュー復活は難しいと思うので、まずは定期的に期間限定メニューとして出してほしいです。生協の赤字が回復してから恒常メニューとしての復活を待っています。

また北部トラベルセンターについて、経常剰余が赤字となっています。受験フライトのみなどして規模を縮小するののも一つの選択肢であるのではないのでしょうか。

(学部生総代より)

A 1 2.

ご理解いただいている通り、牛トロと米が同時に価格高騰し、定番メニューとしての提供が難しくなりました。今年度の価格改定以前から牛トロ井は利益率が低いメニューでしたが、北大生協の名物メニューとして提供を継続しておりました。価格高騰により定番での提供は難しくなりましたが、期間限定での提供を検討しております。

提供日をお楽しみにお待ちください。

現在の北部トラベルセンターは主に 2 つの利用形態があります。一つはクラブ・サークルの遠征等、もう一つは海外異文化体験など留学関係です。新入生向けのメルボルン異文化体験ツアーは 24 年 21 名参加、25 年 27 名申込と組合員の関心が広がっており、その後の留学サポートの拡大にもつながるものと考えています。北大生協としては PC・英語講座・公務員講座と合わせて北大生の学びを支える事業分野の一つとして旅行部門を捉えています。キャリアサポート店と連携しながら事業を再構築し、損益的にも改善していきたいと考えています。

以上



つながる元気、ときめきキャンパス。

北海道大学生生活協同組合



北海道大学生生活協同組合 理事会室
〒060-0808 札幌市北区北 8 条西 7 丁目 1-1
seikyou@coop.hokudai.ac.jp
<https://www.hokkaido-univcoop.jp/hokudai/>